

# Urban Design Lab Magazine

## 研究室に新しい風

The new members has come !

—新任助教と秋入学者のみなさん—

-assistant professor and students -

text\_omori

キャンパスの銀杏も色づく中、都市デザイン研究室に新しいメンバーが加わりました。助教1名と博士課程留学生1名、研究生1名、まちづくり大学院の修士課程4名です。みなさん意気込み充分です！

### 名前 / name

- ①出身地 / hometown
- ②趣味・特技 / hobby and speciality
- ③好きなまち / Your favorite town
- ④座右の銘 / motto
- ⑤都市デザイン研究室に来たきっかけ / Why do you choose this lab?
- ⑥研究室生活についての意気込み / What hope do you have for your life in this lab?

### 助教 / assistant professor

**松田 達 / Tatsu MATSUDA**

①石川県金沢市  
②スペイン語の練習。最近ではインタビューが得意になって来ました。  
③ポルト、バルセロナ、ジローナ、パリ、プロヴァン、ペルー、マラケシュ、フェズ、パルマノヴァ、プラハ、ドゥブロヴニク、ベルリン、ラ・ショー＝ド＝フォン、リュブリャナ、香港、台南、門司、新宮、金沢、白峰、高山、村上、草津、熱海、鎌倉、直島  
④為せば成る  
⑤1994年ごろ『10+1 No.1』(特集 = ノンカテゴリー・シティ)を読んだことが、もっとも初期のきっかけの一つです。そして西村幸夫先生との出会い。  
⑥僕は都市計画と建築を、何度となく往復しながら、今に至っています。西村幸夫先生、窪田亜矢先生がまとめられている、都市デザイン研究室において、自分がやるべきことは多数ありますが、そのうちの一つには、都市に建築が貢献できることがあるかと思っています。僕は建築家でもあり、長期的には、両分野の橋渡しとなるような活動を行いたいと思っています。そして、都市工学科が生まれたその意義を考えながら、都市デザイン研究室の活動に最大限に貢献したいと思っています。そして「都市デザイン」の意義を広く世に問うことが出来ればと思っています。今後とも、皆様、どうぞよろしくお願いたします。



### 博士 / doctor

**オスマン スマイヤ / Sumaiyah Othman**

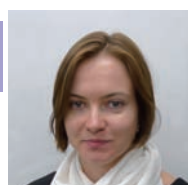
- ① Kedah Darul Aman, Malaysia
- ② Photography
- ③ My hometown
- ④ Just do it.
- ⑤ I like urban design.
- ⑥ Making friend and strengthen future networking.



### 研究生 / research student

**イルゼ パクローネ / Ilze Paklone**

- ① Riga, Latvia
- ② Architecture, photography, sporting
- ③ I like to explore the places and then the concept "favourite" disappears. I simply enjoy the differences. Honestly, the place I always remember is a deserted seaside of Latvia.
- ④ My way can only be strong if my heart is with it.
- ⑤ My interests in architecture comply with the profile of the laboratory - searching for new investigation and design processes of urban design.
- ⑥ I am looking forward to venture into understanding the concept of space in Japan and compare it with my experiences and research discoveries. Moreover, I am keen on working together with my colleagues to share ideas.



### 修士 / master

**桂 有生 / Yuki KATSURA**

- ① 神奈川県藤沢市
- ② ロック。フェス、ライブめぐり
- ③ 横浜。昨日、横浜のみんなに結婚式を創って頂きました。  
<http://www.hamakei.com/headline/6478/>
- ④ 有意義に生きる (名前の由来です)
- ⑤ 建築をずっとやって来ました。近年、都市に興味を移し、都市と建築の間に近いようで大きな違いがあることに気付いたので、そのギャップについて考え、学びたいと思ったので。
- ⑥ 自分の研究も大事ですが、少くも研究室にも貢献したいと思っておりますのでよろしくお願いたします！



### 修士 / master

**若松 久雄 / Hisao WAKAMATSU**

- ① 東京
- ② 書・旅行・芸術鑑賞
- ③ コペンハーゲン・東京・奈良
- ④ 誠実
- ⑤ 都市・建築・デザインの領域を超えた研究をしたいと思いたためです。
- ⑥ 幅広い見識で柔軟に研究や提案プロジェクト等いろいろなか機会を期待しています。



### 修士 / master

**渡邊 秀樹 / Hideki WATANABE**

- ① 神奈川県横須賀市
- ② 考えを一枚紙 (killer paper) にまとめる
- ③ 上海、パリ、ラテン系が住む街、アジアの諸都市
- ④ 他人がやらない分野で1番を目指す
- ⑤ 西村先生に指導していただけたから。研究を計画論に結び付けたいので。
- ⑥ 若い人達のパワーに負けないように、積極的に発信していきたいです。



### 修士 / master

**江島 知義 / Tomoyoshi EJIMA**

- ① 東京都墨田区
- ② かつてはパラグライダー。最近子育てと出張に行ったときの早起きまち歩き。
- ③ 京島や月島、神楽坂、ストラスブール。こざいな場所より雑多な路地や賑わっている場所を通りを眺められるスポットが好きです。
- ④ 気合!!
- ⑤ 西村先生が、楽しそうに講義をされているところがとても魅力的だったことと『都市の質』を考える研究室はここだと感じたので。
- ⑥ 仕事では、数々の歴史的建造物の保存・復元・活用を行ってきませんが、歴史的建造物を残す意義、新築の建築を設計するときのデザインの意味を都市の質という考え方から考えていきたい。



## 鞆雑誌 2011 満を持して発行!

Tomo-Zasshi 2011 was published successfully!

10月15(土)~16(日)日、地元の皆さまへの鞆雑誌2011のお披露目展示と記念イベント“ともラリー”を実施しました。20名の元気いっぱいの鞆っ子たちと、地図をぶら下げまちを歩き、走りまわりました!一生懸命浜の舟や軒先の茅の輪を数える子供たちの姿、景品の鞆缶バッジを胸に付けた満面の笑み。この姿には喜びがこみ上げると同時にプロジェクトの醍醐味だなあと感動しました。そして新しい鞆雑誌をまちの皆さまに手渡す瞬間もまたかけがえのないものでした。様々な出来事や出会いが思い出され、感慨一入。鞆雑誌2011を通じて新たな出会いもあり、今後の展開が期待される充実の2日間でした。

プロジェクトの中でも、最も長期にわたって受け継がれている鞆PJ、その成果が今年も鞆雑誌としてまとめられました!

M2 西村 裕美



▲缶バッジをつけてみんなで記念撮影



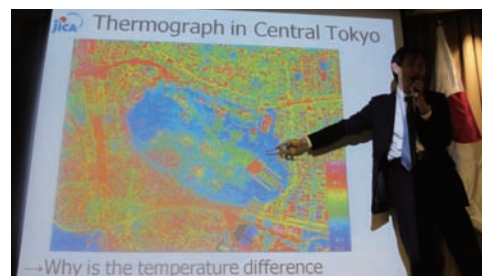
▲鞆雑誌2011の表紙

## OB・OGめぐり第9弾！

UD Lab's OB and OG tour all over the world!

2004年に修士課程を修了した須原です。修了後は、国際協力機構（JICA）に就職し、現在はシリア事務所に勤務しています。JICAはODAの実施を担当する機関で、業務は多岐に渡りますが、シリア事務所での業務を紹介したいと思います。シリア事務所は日本人職員が5名と、比較的小規模なため、1人で多岐な業務を担当します。大きくは、安全対策・経理といった事務所運営に関する業務、実施中の事業管理、新規協力の形成といった業務があり、これら全てを担当しています。現地視察し、住民や行政機関の方へのヒアリングを通じて課題を把握し、予算、人材、制度といった様々な制約がある中で、最適な新規事業を形成することは、大学院時代に経験したまちづくりのプロセスと大変似ており、役立っています。また、大学院時代は路地を残すために、建築基準法の解釈について研究していたのですが、JICAでも難しい事業ほど円滑に運営するには、制度を柔軟に解釈し制約を最小化する必要があります、研究を通じて得た考え方が役立っています。あと、研究室時代の休日なし徹夜ありのハードな、だけど楽しかった日々を通じて、シリアでの治安情勢悪化のような困難に負けない、タフさが養われたのかなとも思います。

都市デザイン研究室のOB・OGの方々は卒業後、様々なフィールドで活躍されています。今回は国際的に活躍されている須原靖博さん（平成16年修了）です。



▲レバノンでのGreen Building Workshopの講演



▲ヨルダン電力研修所視察の様子

## プロジェクト報告

## 2大プロジェクト本格始動

The 2 Big Project have Started

大槌町では町長選が終わり、正式に町の復興のコーディネーターに任命され現地調査も本格化しています。清水PJは11月の社会実験（まちあるきとクイズラリー）に向け急ピッチで準備を進めています。

清水 Shimizu-project  
プロジェクト

日大横内研究室 M1 清水 裕章

10月18日（月）と19日（火）に清水PJの現地調査を行いました。初めての泊まりがけでの調査となり、調査内容の充実さは勿論、夜を通しての話し合いによりメンバーの結束力も高まったと思います。2日間の内容は、11月23日（水）に実施する社会実験の下見などの調査班と、民間企業などへのヒアリング班に分かれて行いました。調査班では、社会実験実施場所である自転車専用道路の舗装の色が変わるアクシデントも発生しました。社会実験まで一か月を切り焦りも交じってきましたが、今まで以上に気を引き締めて取り組んでいく所存です。



▲自転車道にシールが貼れるか試行



▲現地調査で初めて富士山を望む

大槌復興 Otsuchi-project  
プロジェクト

B4 萩原 拓也

10月15日（土）と16日（日）に大槌町の文化遺産調査を行いました。大槌町はもともと、豊かな湧水に恵まれ、生活の風景の一部となっていた町で、調査では震災後の湧水の現状を確認しました。多くの建物が流された市街地には今も自噴している湧水が見られ、里山の麓の小川では生物の気配も感じられました。虎舞や鹿子踊といった町の伝統芸能と合わせて、こうした自然も大槌町復興への手がかりとしての可能性を感じられました。また16日は赤浜地区の住民会議に参加しました。会議では地区の有志からなる「復興を考える会」から、住民に向けて復興案の発表が行われました。発表では3年生製作の模型が使われ、多くの住民が真剣に耳を傾けている姿が印象的で、復興に懸ける思いを感じられるものとなりました。



▲市街地で今も残る湧水池



▲赤浜小での住民会議

## Information

10・11月の予定



初代マガジン編集長 酒井憲一氏による特別講義開催！！

10月28日（金）11時40分から工学部14号館802会議室  
テーマ：エクステリアウッドの旅

—都市デザインの微粒子・まちづくりのツール—

10月28日

第9回研究室会議 @8階 802 会議室  
Thomas C. Wang 氏レクチャー @141 講義室

10月30日～11月7日

鹿児島PJ 社会実験 「Urban Station Kagoshima」

11月8日～9日

清水PJ 現地調査

11月10日

第10回研究室会議 @8階 802 会議室

## ★ 編集後記

大森 文彦

つい先日、六大学野球の東明戦を観に行ってきました。去年、斎藤佑樹に東大が勝った奇跡の試合に居合わせただけに、あの時ほどの感動はなかったものの、今回は（破れはしたが）優勝に大手をかけた明治から7点を奪いました。神宮外苑に静かに舞う銀杏と秋の香りは、熱気に満ちた夏の高校野球とは違う、凛とした空気と緊張感を湛えていました。お我が東大、栄えある学府。